

山梨県立身延高等学校第3回学校運営協議会議事録

日時：令和6年2月3日(土)

次第

開会

会長あいさつ

校長あいさつ

議事

- 1 総合学科発表会の感想（各委員より）
- 2 今年度について
 - ①事業報告について
 - ②学校改善アンケートについて
 - ③授業アンケートについて
- 3 来年度について
 - ①学校経営方針について
 - ②重視すべき活動について
 - ③来年度の委員について

連絡

閉会

【議事録】

事務局：

本日は午前中より発表会の方へ参加していただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから第3回学校運営協議会を始めさせていただきます。

なお本日の協議会の議事録作成のために、会議中に録音させていただきたいと思います。ご理解ご協力よろしくお願いたします。

○会長あいさつ

今日、午前中から総合学科発表会にご参加いただいた上での会議ということで、本当にありがとうございます。今回の会議が年間のまとめ、次年度への引き継ぎのための重要な会議になると思います。ぜひ、忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。

よろしくお願いたします。

○校長あいさつ

本日はご多用のところ、午前中の総合学科発表会、それから午後の本協議会、ご出席賜りまして本当にありがとうございます。また、平素より本校教育活動に対しましてご理解ご協力を賜りまして、重ねてお礼を申し上げます。前回の第2回学校運営協議会以降の学校活動についてお話をさせていただきます。まず1点目は、感染症についてです。罹患した生徒

は散見されましたが、学級閉鎖までの対応はございませんでした。学校行事等もすべて予定通り行われています。また3月1日に予定されています卒業式も、現時点ではコロナ以前に戻す予定でいます。2点目は、来年度の生徒数確保についてです。前回の協議会におきまして、皆様からご意見をお聞かせいただきました。峡南地域の少子化もある中で、各中学校へ改めて本校の取り組みを説明させていただき、ご理解していただきました。3点目は、中高一貫教育事業についてです。先日、12事業の見直しの原案が決まりました。それをもとに、2月9日に3校の校長で改めて意見交換を行い、2月26日に開催する第2回将来構想連絡協議会で承認をいただく手順となっています。それから、本日ご覧いただきました総合学科発表会ですが、本校の教育活動の成果や生徒の生き生きとした姿を知っていただく絶好の機会であると同時に、総合学科高校としての真価を問われるものと認識いたしております。お気づきの点がございましたら、この後お話を聞かせていただければと思っています。それでは本日もどうぞよろしく願いいたします。

○議事

・議長は井上会長様、よろしく願いいたします。

議長：設定されました3つの議題に従って進行をさせていただきます。

まず1点目ですが、今日午前中の総合学科発表会、貴重な時間を割いていただきご参加いただきました。ぜひ、全員の委員さん方からお声をちょうだいしたいと思います。

委員：南部中学校の卒業生が、今日も何人も司会や発表者を務めていて、さらにプレゼンテーション能力や伝える力をつけたり、より進路について考えていたりと感じられる発表でした。ほかの中学校へも案内など出して見に来てもらうのはどうか。

委員：インターンシップ等で職業選択の意識を持たせることは重要だと考えます。一方で、早期で地元のみインターンシップだけでは生徒の視野が狭まることもあるのではないかと。ジレンマでもありますが、上級学校や上級職を目指せるような夢を持たせるアプローチも必要ではないかと思えます。

委員：今日の総合学科発表会は楽しみにしてきました。身近な職業体験やインターンシップなどが中心でした。例えば、「農業」ではこの地域で農作業をやるだけでなく、上級学校などで専門的な地域の農業を学んでもらえる生徒もあっていいのではないかと。

委員：調査においても、ツールを使いこなして、プレゼンができる能力というのが、過去に比べたら、はるかに高度になっている。こうした成果を対外的に発信できないか。そうすると近隣の身延中学校とか南部中学校の生徒さんたちも見てもらえるのではないかと。身延高校は、遠方だという感じで避けられている部分もあると感じるので、静岡、甲府の方面にもアピールしても良いのではないかと。

委員：この取り組みの中で「卒業後を意識」して、上級学校・大学進学や就職でインターンシップを扱われていました。実体験するという点でこの取り組みは良いと思えます。発

表は、この3年間の学びがわかるものだったと思います。身延高校においても、3年間、しっかり取り組めば卒業後にも繋がるということが分かりました。

委員：各学年段階で、しっかり勉強されていました。特に、進学だけではなく、就職に関してもサポートをしていただけるのだと分かりました。「社会を生き抜く力」もそれぞれの立場や学年で考えることによって、身に付いていくと思います。また、今日の発表を映像化できれば、南部中学校でも「中高一貫教育」の1つとして学習できるのかなと思いました。インターンシップについて、ぜひ南部町、役場の方へ、希望者があれば、総務課の方にお話をしておきますので、ぜひご相談ください。

議長：それでは、2つめの協議になります。はいそれでは事務局からお願いいたします。

事務局：資料3頁をご覧ください。まず①の事業報告についてです。3頁の資料ですが、学校行事の抜粋をもちまして事業報告とかえさせていただきます。

【各事業について説明】

以上です。

議長：②の学校改善アンケートについてお願いいたします。

事務局：資料の4頁をお願いいたします。

【学校改善アンケートについて説明】

まず、教職員アンケートの結果からですが、前回(7月実施)との比較の中で特に気になる点について説明させていただきます。学校経営と学校事務の項目の中で、今年度の学校経営方針及び教育目標は高い評価をいただいています。さらに、来年度に向けて校長面談や分掌希望調査等で先生方が気持ちよく働けるような環境づくりを心がけていきたいと考えております。学校運営協議会の活動のことですが、1回目2回目の会議内容等を職員会議で周知する形で、活動の方の説明をさせていただきました。

研究研修は、研究学習活動などをさらに取り組まなければならないと考えております。教育課程、教科指導、生徒指導等につきましても、概ね前回よりもアップした数値となっています。資料5頁になります。図書館が授業に有効活用されているかという項目があります。前回の学校運営協議会及び、第1回の学校改善アンケートの内容で、昼食時間が短いとか、昼休みの図書館の有効活用等の課題が見えてきました。職員、生徒、それから保護者等の方にもご意見いただく中で、令和6年度から時程を変更することにしました。内容的には昼休みを40分から45分の拡大。昼休み清掃を放課後に行う形としました。その時間に、図書館を利用したり、授業の質問をしたりという形で有効に活用できるように改善に取り組んでいます。

【以下、生徒アンケート・保護者等アンケートの内容説明】

保護者等から次のような感想がありました。「去年、一昨年と比べて子供たちに活気が見られるようになりました。そんな子供たちを見ていると保護者も安心できます。」とい

うものでした。今年度、特にコロナの収束で、学校行事等が戻ってくる形になりましたので、その行事運営がスムーズに実施でき、保護者等から感想いただけたのは非常にありがたいことだと考えます。

また、生徒の進路指導面では、来年度は土曜日講座の中で連携中学校の生徒と一緒に学ぶ形をとり、ご案内をしていきたいと考えております。

資料の 22 頁の方をお願いいたします。授業アンケートの全職員の集計になっております。先生方には既に個別のものを配付して改善をお願いしているところであります。特に ICT 機器の活用については、授業で使用されている先生方も多くなってきたと考えます。課題としては、生徒の授業の予習と復習があげられます。日頃より、適正な課題の提示を先生方に進めてほしい旨を伝えていきます。それが個別最適化の学びにつながります。以上です。

議長：何かご意見はありますか。

委員：学校改善のアンケート結果を見ても、生徒との信頼関係が構築されているという結果だと感じます。

議長：3 番目のご提案をよろしく申し上げます。

校長：学校運営協議会第 3 条では、第 3 回学校運営協議会において次年度の学校経営方針を学校側から説明をさせていただいて、方向性について承認をいただき、来年度を迎えることになっております。従いまして、本日の会議で説明をさせていただきます。

学校経営方針ですが、基本的にこれまで歴代の先生方のいろんな思い、それから地域の方と連携してきた結果が今となっていますので、そういう思いを大切にしながら、表現などをちょっと統一した形で作り直しました。特に、これまでのキャリア教育を継続しつつ、進学指導も同様にバランスよくやっていくことが必要だということです。今年度から特に進路指導を前面に出しながら、バランスを取るようにしています。本校の特徴は、普通科目を基軸とした進学型総合学科高校です。こちらを「見える化」し、進学型の総合学科高校である点をしっかりここでアピールしていこうと考えています。教育目標実現のための方策です。まず 1 つとしては、「総合的な探究の時間の充実」という言葉を入れました。本校でも、今が「探究活動」を見直すタイミングと思いますので、こちらを明記させていただきます。それから「生徒につけさせたい力を明確にする」ことです。学力差があるところで同じ課題を出しても、それでは力がかかると考えます。それぞれの生徒にどういう力をつけさせるのかを明確にする必要があります。これに対応した授業や課題作成ができる学校になりたいと考えて記載しました。

それから令和 5 年度は、コロナ禍から復帰した 1 年目ということで、学校教育を見直すのは今年がチャンスであると話しました。見直す中で、生じた時間を生徒対応に使って

ほしいということです。例えば、外部試験等の結果を活用して、面談、学力のフォロー、普段の高校生活で担任の先生方が生徒と一緒に話ができるような時間を作っていただきたいということで、このようなことを目標、実現に向けた方策とさせていただきました。

また、「情報モラル教育」というのを入れました。昨今、インターネット等で被害に遭ってしまったり、また性的被害のターゲットになったりというようなこともあります。また、本当に幼稚な部分で、仲間外れになるなどの事例があります。こうした点を教育の一環として取り入れたいと考えております

まずは、地元の中学生に通いたいと思ってもらう学校になることだと感じています。そのためには、本校に在学中の生徒が中学生に身延高校はこうだと言ってくれるのが一番だと思います。身延高校だと通学時間が短いので、部活動や学級活動などに時間を有効に活用できることを感じてもらう。身延高校だと、定期代等のお金が必要上にかからないことを理解してもらいたい。進学希望の生徒には、身延高校からも国公立・私立難関大学に進学できると実感してもらえようようにしたいと考えているところです。それから、地域に根差した学校づくりです。この協議会や保育園と高校の連携、中高連携、高大連携など継続して地域とともにある学校づくりをしていきたいと思っています。

県立大学との連携の中で、身延町への提言をさせていただいています。こちらも地域貢献の形で、本校の生徒が活動できていると思っています。生徒数の関係で、活動しても限りがあります。その中でも県内で頑張っていますので、地域の皆様に勇気を与えられるような取り組みをサポートしたいと考えています。

議長：来年度についての学校経営方針等のご提案を先いただきました。

ここは承認をいただくようですので、ご意見等あったらお願いします。

委員：キャリア教育の推進の中に、学校推薦型選抜や総合型選抜への対応がありますが、実際の身延高校卒業生の受験状況はどのようなものですか。

事務局：進路希望は、3分の1が大学、3分の1が専門学校、3分の1が就職となっています。専門学校や大学の方も小論文・面接での試験が非常に多いところです。今年度は、小論文対策や面接対策を図ってきました。今年のスローガン「生徒と教員がともに学び、成長する学校」をふまえて、小論文研修会では、生徒と教員がともに講義を聞きまして、その後教員が別途講習を受ける形で実施しました。来年度は、1年次から進路実現に向けた方法や考え方を学ぶ機会が年間を通じて用意しております。3月8日には、生徒の国語力向上のきっかけとなる講演も実施予定です。本校の保護者等や連携中学校の先生方にもご案内して、予備校講師の話聞く機会を設けていきたいと考えています。

委員：来年度のことについて、非常に素晴らしい内容ではないかと思います。身延高校から、

国公立大学に進学ができるよう頑張ってください。また、今年の能登沖地震がありました。こうした災害に対しても教育の機会としてとらえてはどうか。社会性を養う機会かと思えます。

校長：本校でも検討したところでもあります。北陸方面から来ている生徒もいるのでどのような方法で関わるのか難しいところでもあります。なお、1月の全校集会では黙祷を全校でさせていただいてはおります。

委員：南部地域では、地域とともに実施する防災訓練をやっています。子供たちや中学生が地域の一員として、復旧復興に携わることができるし、そういう力を持っているのです。そういう意味での社会性を、やっぱり生かしてやれるような場面設定をできるのは大人の仕事かと思えます。

委員：学生募集についてです。身延高校が選択の1つになるにはどのようにしていくか。国公立大学に進学できるこれも重要ですが、県外の生徒や在学の生徒がなぜ身延高校を選択したのかの分析も大切ではないか。地域の子がなぜ身延高校を選んだのか、それを探ることで新しい活動を作っていくのも重要かと思えます。

委員：校長先生が自ら各中学校を回られて、本校の特色を中学校の校長先生方にお伝えした。3年の先生方や3年主任の先生に効果がでていて、進路指導などの身延高校の良さを3年の生徒によく説明していました。現在の中学校の中でも個別支援が必要な生徒もいる中で、対応できる学校ではないかと言っていました。きめ細やかな生徒指導や支援ができることを伝えてもよいのではないのでしょうか。

委員：南部方面を見ると当然身延高校へ進学ということになる。時間や距離的な問題で。一方で、六郷方面では、どこに進学するかで迷う地域になる。このような地域にも強く働きかけてもらえればと思えます。

議長：ありがとうございました。それでは方向性については、これでよろしいですか。

【異議なし】

校長：詳細資料の24頁お願いいたします。来年度の運営協議会についてお話をさせていただきます。第2回の協議会でもお話をさせていただきました。私の考えとしましては、皆様に引き続きお願いをしたいと考えているところです。また、学校協議会の要綱に「身延高校の所在する地域の産業界の代表」記載もあります。来年度からはこちらの方面の方にもお願いしたいと思います。身延町にある会社の方に、学校現場から離れた視点で、学校教育等を見ていただいてアドバイスをいただければと考えているところです。これに関しては、ご承知おきいただければと思っています。

議長：お話があった通り、来年度についてはよろしいでしょうか。

【異議なし】

以上で議事を終了します。

○連絡

事務局：令和5年度の高等学校に関する評価という形をお願いいたします。

ご回答の方よろしく申し上げます。3月の上旬に、最終報告がありますのでよろしく
お願いいたします。

【閉会】